

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【島小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	多くの児童が、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられる。個人差も大きいことから、SA等による個別指導を充実させたり、ICT活用状況のデータ等を効果的に活用したりしながら、個々の対応も進めていく必要があると考える。特に、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、多くの学年で課題があるため、重点内容として取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	校内の学校課題研究により、話し方や聞き方についての校内での指導の統一を図ってきた。引き続き、校内で指導方法の統一を行い、思考の深化につながる話し合い活動を実践していく。算数では、「データの活用」について課題があることから、そうした課題を意識しながら取り組む機会を多くもたせていくことで改善を図ってきたい。
主体的に学習に取り組む態度	今年度は、学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れてきたので、次年度は、活用方法について質の向上を図っていく。また、学ぶ楽しさを実感する授業が行えるように児童の声に耳を傾けながら、適切にフィードバックを行い、学習意欲の向上を図ってきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度の全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、昨年度から2ptUPをする。	⇒ 朝の基礎基本の時間を活用し、言語活動の基礎となる問題に定期的に取り組む時間を設ける。全ての教職員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、問題の傾向等について全職員で把握し、日頃の授業に生かす。
思考・判断・表現	R5年度の全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、昨年度から2ptUPをする。	⇒ 学校課題研究の「話し合い部」を中心に、話し方や聞き方についての校内での指導の統一を図る。「みんなではな島小」：グループで話し合う流れ・こう島小：話すときの約束や聞くポイントの提示)
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の学校評価の児童アンケート「進んで学習に取り組んでいる」の項目において、R4年度から1ptUPをする。	⇒ 学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れることで、個別最適な学びを実現する。各教科において、単元の導入について工夫をし、主体的に学習に取り組めるようにしていく。

＜小6・中3＞(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	学年によってばらつきがみられる。3年・6年は、どの教科でも数値が、全国平均や市平均と同等または、上回った。一方で、4年・5年は、ほとんどの教科で市平均を下回った。定期的に朝の基礎基本の時間を活用して、言語活動の基礎となる問題に取り組む時ことができたが、内容については拡充を図りたい。	B
思考・判断・表現	「知識・技能」と同様、学年によってばらつきがみられる。3年・6年は、どの教科でも数値が、全国平均や市平均と同等または、上回った。一方で、4年・5年は、ほとんどの教科で市平均を下回った。話し方や聞き方については、学校課題研究の「話し合い部」をもとに校内で指導の統一を図ることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	生活習慣に関する調査の「教科への興味・関心に対する質問項目」では、肯定的な回答の割合が市平均を下回っている学年が多い。学習用タブレットを中心としたICT機器を積極的に学習に取り入れることで、興味・関心を高めてきた。活用頻度は、昨年度のおよそ3倍以上になった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査・国語について、全ての領域で全国平均を上回った。特に、「情報の扱いに関する事項」は10ポイント程上回っている。算数についても、全ての領域で全国平均を上回った。特に「A数と計算」は5ポイント程上回っている。問題別に見ると、「分配法則を用いたりして答えを求める問題」は全国平均を下回った。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査・国語について全ての領域で全国平均を上回った。ただ、「文章を読み取り、その問題点と解決方法を書く問題」では、全国平均とほぼ同じ正答率であった。算数について、全ての領域で全国平均を上回った。問題別に見ると、「テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と特徴を求める問題」は全国平均を下回った。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は89.3%と全国平均を大きく上回った。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の肯定的な回答の割合は、88.4%と、教科横断的な取組を積極的に行っていることが成果として表れた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	各教科において市平均を上回った。しかし、国語の「読むこと」及び算数の「図形」に課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、算数は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語での肯定的回答の割合は市平均を下回った。	小4	各教科において市平均を下回った。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数の「数と計算」「変化と関係」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、国語は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、算数での肯定的回答の割合は市平均を下回った。
小5	各教科において全てで市平均を下回った。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数の「数と計算」「データの活用」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、理科は、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語・算数・社会での肯定的回答の割合は市平均を下回った。	小6	社会は、市平均を上回った。国語・算数・理科は、市平均を下回った。国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」「変化と関係」、理科の「地球を柱とする領域」などに課題がみられた。生活習慣に関する調査の各教科への興味関心について、社会と理科で、肯定的回答の割合が市平均を上回ったものの、国語・算数で肯定的回答の割合は市平均を下回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし



# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【島小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 多くの児童で、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられる。(特に、漢字や計算) <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間が十分に確保されていない。	⇒ ・低学年は「ドリルパーク」中学年・高学年は、「スタサブ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保する。【週3回以上、授業での実施】 ・児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1回程度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の正答率が低い。 <指導上の課題> 授業の中で児童が自己表現する場面が少ない。また、それに対して十分な評価ができていない。	⇒ ・活動の中に共同編集(Canva等)を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が92%以上】(R5年度89%)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)